

今日の眼疾患治療指針 第3版

大路正人, 後藤 浩, 山田昌和, 野田 徹 編 西田保裕, 根岸一乃, 相原 一 編集協力

眼科医として経験を積んでくると、自分が初期研修医だったころから現在に至るまでの30数年間の眼科医療の進歩を感慨深く反芻できるようになる反面、自分があまり専門として関わってこなかった領域の知識は年々疎くなってしまっているのに愕然とすることがある。特に、私のように大学病院で紹介患者の診療を主に行っていると、自分の専門領域に関係なくありとあらゆる種類の眼疾患に曲がりなりにも対応することを余儀なくされるような状況となり、患者を目の前にしてその都度当該疾患の専門家の意見を聴きたくなることは日常茶飯事である。そのような時に役立つ第一級の座右の友とも言える著作が、このたび上梓された「今日の眼疾患治療指針 第3版」である。

これは2007年の第2版の刊行から9年を経て、さらにこの間に急速に新しくなった眼科学の進歩を取り入れてバージョンアップされた、言わば現代の眼科学の粋を結集した書物と言える内容になっている。この第3版では眼科の各分野を網羅的に632の項目に整理して、各項目に当代の専門の執筆者を迎え、さらに各執筆者が現時点で想定される最高の知識をご自身の経験をまじえて過不足なく記載されたことが窺える。特に網羅的であることが重要で、この本に書かれていないことはよほどまれなことであるという判断もできる。しかも各項目とも疾患概念から診断の要点、さらに治療法と系統立って記載されているので筋道立てて理解しやすい。加えてカラー写真や図表をふんだんに使用して視覚的な理解にも配慮されており、

忙しい臨床医にとっては大変嬉しい内容として仕上がっている。

本書の利用法にはいろいろな方法があってよい。私のように診療の合間に各領域の専門家にコンサルトするつもりで紐解いてみるという方法、さらには若手の眼科医が眼科専門医試験をめざして眼科臨床の習得に利用するという方法、また新進の眼科専門医としてこれから日々新たに眼科の研鑽に励む際の参考書としても必要十分な内容を網羅している。また検査法に関する項目も充実しており、眼科検査に携わる視能訓練士の教育にも十分役立てることができるであろう。その網羅性を利用して、例えば1日に5項目ずつ毎日通読すれば4か月で一通り読破することができ、それを1年間継続すれば都合3回完読することとなり、それだけで眼科学の全領域に少なからず触れることができるという計算になる。日々の短時間の読書で眼科学の全分野に精通することも決して夢ではない。いずれにしても各自の状況に合わせて本書を有効に活用されることを希望する。本書がひとりでも多くの眼科医に活用されれば、おのずと日本の眼科医療を高水準に維持することにもつながるのである。

弘前大教授・眼科学
中澤 満

A5・頁912 2016年10月
定価：本体24,000円＋税
[ISBN978-4-260-02479-2] 医学書院刊